

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
国語	現代の国語	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
現代の国語（大修館書店）	入試頻出漢字+現代文重要語句TOP2500四訂版（いいづな書店） プログレス現代の国語総演習（いいづな書店） 評論速読トレーニング700（教研出版）

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	実社会に必要な国語の知識や技能を身に着けるようにしている。
	思	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになっている。
	体	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
伝える・伝え合う わかりやすく書く	文章の構成を基に、文章の要旨や要点を把握できるようにしよう。 また読み解きに必要な漢字や語句も習得していこう。	・定期考査・課題実力 テスト ・ワークシート ・小テスト	4月～5月上旬
文章の要点をつかむ 伝わるように話す 発想を広げる、意見を書く	対比の関係を正確にとらえ、筆者の論理展開を把握できるようにしよう。 また内容が正確に伝わるように構成を工夫し、適切な言葉遣いを意識して話せるようになろう。	・定期考査・課題実力 テスト ・ワークシート ・小テスト ・発表内容	5月中旬～6月下旬
文章の要点をつかむ 目的に沿った質問をする 魅力的な紹介文を書く 統計資料をもとに意見を書く	自分の考えが正確に読者に伝わるように、文章構成を意識して、意見文を書くことができるようになろう。 日常生活で馴染みのない語彙を理解し、作者の主張を正確にとらえよう。	・定期考査・課題実力 テスト ・ワークシート ・小テスト ・発表内容	7月～9月

文章を比較して読む 資料を用いて発表する 文章を読み取って主張を書く	複数の文章を比較しながら読み、それぞれの情報を相互に関係づけて、作者の主張の違いをつかもう。 発表に適した言葉遣いや、文章の構成、話し方などを工夫して考えよう。	・定期考査・課題実力 テスト ・ワークシート ・小テスト ・発表内容	10月～11月
根拠を吟味して読む 工夫して話す 説得力のある資料をつくる	聞き手がスピーチの内容を理解しやすいように構成、展開を考えよう。 資料を用いるなど効果的な文章構成を考え、読み手が内容を理解しやすい資料を作成しよう。	・定期考査・課題実力 テスト ・ワークシート ・小テスト ・発表内容	12月～3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考査評価〕	33% 程度	33% 程度	34% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」.....5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	言語の知識を増やし、表現の幅を広げ、相手に伝える技術を身につけましょう。 また、普段から本や新聞を読む習慣をつけておきましょう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
国語	言語文化	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
言語文化（大修館書店）	新しい古典の学習 2 in1 スタイル 学ぶぞ古文と漢文新装版〔尚文出版〕 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート 新しい古典の学習 2 in1 スタイル〔尚文出版〕 プログレス言語文化総演習〔いいいぢな書店〕

学習目標	言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようする。
	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の扱い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点 及びその趣旨	知	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めことができないようにしている。
	思	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	体	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
古文特有の言い回しを学ぶ。 古文の文法をおさえ、文章読解に役立てる。	古文の仮名遣いや特有の言い回しを理解して、古文の文法を理解しよう。	・小テスト ・ワークシート ・定期考査・課題実力テスト	4 ～ 5 月
登場人物の心情変化を捉える。	内容や構成をおさえ、叙述から正確に内容を読み解き、登場人物の心情を読み取ろう。	・小テスト ・ワークシート ・定期考査・課題実力テスト	5 月 ～ 6 月
文法知識を用いて、古文を読解する。 漢文のきまりを理解する。	古文の語彙や文法を理解して、内容を読み取ろう。そして漢文訓読のきまりを理解しよう。	・小テスト ・ワークシート ・定期考査・課題実力テスト	7 月 ～ 1 月
和歌に書かれる心情を理解する。 漢文の文章読解を行う。	物語の内容や登場人物の関係、歌に込められた登場人物の思いをとらえよう。	・小テスト ・ワークシート ・定期考査・課題実力テスト	1 0 月 ～ 1 2 月
抽象的文章の内容を読解する。 構成に注目して読解する。	内容や構成、展開などについて叙述をもとに作品が暗示しているものについて理解を深めよう。	・小テスト ・ワークシート ・定期考査・課題実力テスト	1 2 月 ～ 3 月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔 授業内評価 + 定期考查評価 〕	40% 程度	40% 程度	20% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末（年間評価）】

※「評定評価」・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末（年間評価）】

全体を通して	文学の読解、古典の基礎を身につける大事な1年間です。 2年生から困ることがないように、1年生のうちにきちんと理解しておきましょう。
--------	--

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
地理歴史	地理総合	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
高等学校 新地理総合(帝国書院)	新地理総合ノート(帝国書院)

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価の観点 及びその趣旨	知	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。
	体	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解してみよう。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート ・定期考査	4月～5月
第2章 結び付きを深める現代世界	国際社会における国家の役割を理解するとともに、位置や分布などに着目しながら、地域間の様々な相互関係について考えていこう。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート ・定期考査	6月～7月
第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	場所や人間と自然の関わりなどに着目して、世界各地の生活文化の特徴を理解しよう。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート ・定期考査	9月～10月
第2章 地球的課題と国際協力	他地域との結び付きや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要か考えよう。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート ・定期考査	11月～12月

第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	人間と自然の関わりや地域の特徴に着目して、災害に強い地域づくりについて考えていく。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート ・定期考查	1月 ～ 2月
第2章 生活圏の調査と地域の展望	他地域との結び付き、地域の成り立ちや変化などに着目して、生活圏が抱える課題を探求し、社会参画の在り方について考えていく。	・ワークシート ・授業態度 ・ノート	3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔 授業内評価 + 定期考查評価 〕	38 % 程度	16 % 程度	46 % 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	主体的に授業に参加し、地理的な見方・考え方を身に付けていきましょう。
--------	------------------------------------

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
地理歴史	歴史総合	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
高等学校 歴史総合（実教出版）	歴史総合演習ノート（実教出版）

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
	思	近現代の歴史の変化に関する事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
	体	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
歴史の扉	歴史の考え方について理解し、実践する気持ちを身につけよう。	・授業の取組 ・定期考査	4月
第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 欧米諸国と日本の国民国家形成 帝国主義の時代	18世紀の貿易など、国の動きに着目し、世界が発展した要因を考えてみよう。 日本が開国した理由を理解し、ヨーロッパの国々がアジアに与えた影響や、その結果もたらされた変化について考えてみよう。	・小テスト ・授業の取組 ・定期考査	5月 ～ 7月

第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第一次世界大戦と大衆社会 経済危機と第二次世界大戦	第1次世界大戦が世界に与えた影響や、日本が参戦したことの背景や影響について着目し、国際情勢の変化やアジア諸地域の動向を理解しよう。 第2次世界大戦が発生した原因を考え、地域や出来事の関連をみつけることで理解していこう。	・小テスト ・授業の取組 ・定期考査	9月 ↓ 12月
第3章 グローバル化と私たち 冷戦と脱植民地化 多極化する世界 グローバル化と現代世界	第2次世界大戦以降、国際秩序が変化したことによる、対立や統合に目を向けることで、現代の紛争など諸課題について考えよう。	・小テスト ・授業の取組 ・定期考査	1月 ↓ 3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 (授業内評価 + 定期考査評価)	47% 程度	20% 程度	33% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	なぜ、という疑問をスタート地点にして、歴史の理解につなげていきましょう。
--------	--------------------------------------

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
数学	数学 I	3	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
新編 数学 I (数研出版)	REPEAT 数学 I + A (数研出版) チャート式 解法と演習 数学 I + A (数研出版) REPEAT 数学 I 完成ノート(数研出版)

学習目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	思	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
	体	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え方数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
第1章 数と式	多項式について、同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理し、多項式の加法、減法の計算ができるようにしたりしよう。 実数を数直線上の点の座標として捉えられるようになりよう。また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考察しよう。 絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲をもとう。	定期考査 行動観察 振り返りシート 課題レポート	4月 ～ 5月
第2章 集合と命題	集合とその表し方を理解し、2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができるようになりよう。また、空集合、共通部分、和集合、補集合について理解しよう。 ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察しよう。 条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べよう。	定期考査 行動観察 振り返りシート 課題レポート	5月 ～ 6月

第3章 2次関数	<p>与えられた条件から1次関数を決定することができるようにして。また、定義域に制限がある1次関数のグラフがかけて、値域が求められるようにして。</p> <p>2次不等式を解くことができるようにして。</p> <p>定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察しよう。</p> <p>日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考え方を活用しよう。</p>	<p>定期考查 行動観察 振り返りシート 課題レポート</p>	6月 ～ 9月
第4章 図形と計量	<p>直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められるようにして。</p> <p>既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができるようにして。</p> <p>$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$において、三角比の値から θ を求めることができるようにして。また、1つの三角比の値から残りの値を求めることができるようにして。</p> <p>三角形の内接円と面積の関係に興味・関心をもち、積極的に活用しよう。</p>	<p>定期考查 行動観察 振り返りシート 課題レポート</p>	9月 ～ 12月
第5章 データの分析	<p>度数分布表、ヒストグラムについて理解しよう。また、平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができるようにして。</p> <p>データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができるようにして。</p> <p>データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しよう。</p>	<p>定期考查 行動観察 振り返りシート 課題レポート</p>	12月 ～ 3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考查評価〕	46% 程度	31% 程度	23% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	数式や計算量が多く、大変に感じるかもしれません、考え方を理解できればどんどん進め POSSIBILITY THERE IS A LOT OF FORMULAS AND CALCULATIONS, IT MAY BE DIFFICULT, BUT IF YOU UNDERSTAND THE WAY OF THINKING, IT IS POSSIBLE TO PROGRESS BY STEPS. PREPARE FOR REVIEW AND FORM HABITS TO MAKE STUDY PROGRESSIVE.
--------	--

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
数学	数学A	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
新編 数学 A (数研出版)	REPEAT 数学 I + A (数研出版) REPEAT 数学 A 完成ノート(数研出版) チャート式 解法と演習 数学 I + A (数研出版)

学習目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	思	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。
	体	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定時期
第1章 場合の数と確率	順列、円順列、重複順列、組合せの公式を理解し、利用することができるようしよう。 確率の性質を理解し、求められるようにして、一般的に考察することができるようしよう。	定期考査 REPEAT ノート 課題プリント 行動観察	4月 ～ 10月
第2章 図形の性質	チェバの定理、メネラウスの定理などに興味をもち、積極的に考察しよう。 空間における直線と平面が垂直になるための条件などを、与えられた立体に当てはめて考察することができるようしよう。	定期考査 REPEAT ノート 課題プリント 行動観察	10月 ～ 3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考査評価〕	46% 程度	31% 程度	23% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	数学Iよりも計算量は少ないですが、考え方の深い理解や慣れが必要です。理解したものを見返し解いて、確実な力をつけていきましょう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
理科	化学基礎	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
新編 化学基礎（数研出版）	アクセスノート化学基礎（実教出版）

学習目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次とおり育成することを目指す。
	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようする。
	(2) 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
	(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点 及びその趣旨	知	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	思	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
	体	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子	「物質の構成」では、「単体」、「化合物」、「混合物」の区別を、「物質の構成粒子」では、「原子」、「陽イオン」、「陰イオン」のシステムを理解しよう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	4月上旬～5月中旬
第3章 粒子の結合	「粒子の結合」には、「共有結合」、「イオン結合」、「金属結合」があり、それらの結合の区別を理解し、また、「イオン結合からなる物質」の「組成式」が作成できるようにしよう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	5月下旬～6月中旬
第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式	「物質量」は、「m o 1」で表される新しい単位になる。「m o 1」は、質量の「g」、粒子の「個数」、気体の場合は体積の「L」との互換性をもち、計算問題ができるようにしよう。また、「化学反応式」を、物質の「化学式」をもとに作成できるようにしよう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	6月下旬～10月上旬

第2章 酸と塩基の反応	「酸」は、H ⁺ 、「塩基」は、OH ⁻ を「電離」し、それぞれの分子数が等しい場合に「中和」が起こることを理解して、「中和」反応の「化学反応式」が書けるようにしよう。また、「酸と塩基」に関する計算問題ができるようにしよう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	1月 中旬～1月 下旬
第3章 酸化還元反応	「酸化数」の確認ができるようにして、「酸化された物質」、「還元された物質」の区別ができるようにしよう。また、「イオン化傾向」に関する現象は、日頃目にする身近な物質にも起こる反応であることを理解しよう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	1月 上旬～3月 上旬

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考查評価〕	35% 程度	35% 程度	30% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」.....5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	語句を覚える単元、計算を重視する単元とで、差が出ると思います。それぞれの流れを踏まえて学習をしてください。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
理科	地学基礎	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
地学基礎（実教出版）	ビジュアルプラス地学基礎ノート（実教出版） 地学基礎エブリィノート授業のまとめ（実教出版）

学習目標	<p>日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	思	地球や地球を取り巻く環境から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などをを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
	体	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
(1) 地球のすがた (ア) 惑星としての地球 ア 地球の形と大きさ イ 地球内部の層構造	他の惑星との違いを説明できるように自分が住む地球について理解しましょう。	・定期考査 ・小テスト ・課題 ・レポート	4月
(イ) 活動する地球 ア プレートの運動 イ 火山活動と地震	足の下で起こっているダイナミックな地球の変化を感じましょう。	・定期考査 ・小テスト ・課題 ・レポート	5月 6月
(ウ) 大気と海洋 ア 地球の熱収支 イ 大気と海水の運動	雨が降るのはなぜなのか。雲は何ができるか。風とは何か。説明できるようになります。	・定期考査 ・小テスト ・課題 ・レポート	7月 9月

(2)変動する地球 (ア)地球の変遷 ア 宇宙、太陽系と地球の誕生 イ 古生物の変遷と地球環境	アノマロカリスやピカイア、フクイラプトルやカムイサウルス、アンキオルニスやデスマスチルスを説明できるようになります。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	10月 11月 12月
(イ) 地球の環境 ア 地球環境の科学 イ 日本の自然環境	世界的に見ても非常に自然災害が多いのが日本という国です。正しい防災を学びましょう。	・定期考查 ・小テスト ・課題 ・レポート	1月 2月 3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔 授業内評価 + 定期考查評価 〕	35% 程度	35% 程度	30% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	生物のように反応は早くないですが、ダイナミックに動いている地球を肌で感じてほしいです。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
保健体育	体育	3	1	全

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続とともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようとするため、運動の多様性や体力の必然性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
	運動の多様性や体力の必然性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。
	課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
	活動に自主的かつ公正に取り組み、一人一人の違いを大切にし、互いに助け合い教え合おうとしている。健康・安全を確保しようとしている。

評価の観点 及びその趣旨	技	運動の多様性や体力の必然性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。
	思	課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
	体	活動に自主的かつ公正に取り組み、一人一人の違いを大切にし、互いに助け合い教え合おうとしている。健康・安全を確保しようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
体つくり運動 ・体ほぐし運動 ・持久走	(1)手軽な運動の実践を通して、心身の状態に気づき、仲間と積極的に関わろう。 (2)ねらいに応じて運動の計画を立て、体力を向上させよう。	・観察 ・ワークシート	4月 9月 11月
器械運動 ・マット運動	(1)技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技できるようになろう。 (2)仲間と教え合い課題を解決しよう。 (3)挑戦心を大事に自主的に取り組もう。安全の確保を意識しよう。	・観察 ・発表 ・ワークシート	6月 7月 (II)
陸上競技 ・走・跳・投	(1)効率的な動きを身に付け、スピードや距離を向上させよう。 (2)仲間と課題を発見し、合理的な解決を目指そう。 (3)一人一人の課題を尊重し、自主的に活動に取り組もう。安全の確保を意識しよう。	・観察 ・計測 ・ワークシート	6月 7月 (II)

球技	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを開こう。 ※(ゴール型) 安定したボール操作を身につけ、空間を効果的に使い攻防しよう。 (ネット型) 安定したボール操作、ラケット操作を身につけ、連携した動きで空いた場所をめぐる攻防をしよう。 (basesball型) 安定したバット操作と走塁と安定したグラブ・ボール操作による守備で攻防を開こう。 (2) 自己やチームの課題を発見し解決に繋げよう。気づいたことは言葉にして相手に伝えよう。 (3) フェアプレイを大切にし、作戦等の話し合いに積極的に関わり、自主的な活動を目指そう。互いに教え合うことや、安全の確保を意識しよう。	・観察 ・ゲーム ・スキルテスト ・ワークシート	4月 5月 (I) 9月 10月 (III) 12月 ～ 3月 (IV)
ダンス	(1) 表現したいテーマのイメージを捉えて、緩急強弱のある動きや空間の使い方を工夫して作品を完成させよう。 (2) グループの話し合いで表現方法を改善し、よい良い作品にしていこう。 (3) それぞれの役割をよく考え、自主的に活動に取り組もう。	・観察 ・グループワーク ・発表 ・ワークシート	6月 7月 (II)
体育理論	(1) 興味関心のあるスポーツの様々な側面について多面的に深め、知識を身に付けよう。 (2) 身に付けた知識に対して考察を深め、自分の言葉で表現しよう。 (3) スポーツの理論的学習に自主的に取り組もう。	・観察 ・レポート ・発表 ・ワークシート	11月

年間評価	知・技	思	体
観点別評価割合	40 %	30 %	30 %
《授業内評価》	程度	程度	程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」.....5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	活動に意欲的に取り組み、技能の向上や勝敗を競う楽しさを味わおう。 仲間と協力し、より良い活動を自主的に作り上げよう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
保健体育	保健	1	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
現代高等保健体育（大修館書店）	現代高等保健体育ノート（大修館書店）

学習目標	保健の見方・考え方を働きかせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のように育成する。
	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
	(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
	(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の観点 及びその趣旨	知	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
	思	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
	体	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
・健康の考え方と成り立ち ・国民の健康課題	健康の考え方の変化や成り立ちを理解し、自分の考えを整理しよう。国民の健康課題について各健康指標や疾病構造の変化を通して理解しよう。	・単元テスト ・ノート(ワークシート、レポート)	4月
・生活習慣病などの予防と回復	がんなどの生活習慣病の予防には、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活の継続が必要であることを理解しよう。日頃の生活を振り返り、生活習慣を改善するための具体的方策を考えよう。	・グループワーク ・発表 ・観察	5月 6月
・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	喫煙、飲酒による健康課題の解決や薬物乱用防止には、正しい知識の習得と啓発運動や法整備も欠かせないことを理解しよう。防止策について考え、自分の言葉で説明しよう。		7月 9月
・精神疾患の予防と回復	精神疾患は早期発見と治療や支援の開始が回復可能性を高めることを理解しよう。予防やストレスの緩和について考えを深めよう。		10月

・現代の感染症とその予防	感染症対策には、衛生的な環境整備や検疫、予防接種の普及などの社会的対策と個人の取り組みが必要であることを理解しよう。感染リスクを下げるために効果的な対策を考え、説明できるようにしよう。	・単元テスト ・ノート(ワークシート、レポート) ・グループワーク ・発表 ・観察	11月
・健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり	ヘルスプロモーションの考え方に基づき、健康には個人の適切な管理と環境づくりが欠かせないことを理解しよう。適切な意思決定や行動選択を実現するための工夫を考えてみよう。		12月
・安全な社会づくり	事故は人的要因と環境要因が関連し様々な場面で起こることを理解しよう。安全な社会を形成するための各要素を理解し、課題解決策を考え説明できるようにしよう。		1月
・応急手当	応急手当の意義を理解し、日常的な応急手当やAEDを用いた心肺蘇生法ができるようにしよう。		2月 3月

年間評価	知	恩	体
観点別評価割合 《授業内評価》	40% 程度	30% 程度	30% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	現代の健康課題について正しい知識を身に付け、自分の考えを言葉で表現できるようになろう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
芸術	音楽 I	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
MOUSA1（教育芸術社）	—

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化の理解を深める。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさ自ら味わって聴いたりしている。
	体	生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、感性を高めるために、音や音楽、音楽文化と豊かにかかわり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
曲にふさわしい発声で 表情豊かに歌唱 ・校歌 ・Ave Maria 「ヴォイス・トレーニング」 ・小さな空 ・' O sole mio	・歌詞の意味を考え、発声を工夫しながら意欲的に取り組んでいる。 ・曲種に応じた様々な発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。	歌唱実技テスト 筆記テスト 観察 歌唱実技テスト	4月 ～ 5月
J-POP や歌謡曲の特徴を 理解して歌唱・鑑賞 ・Lemon ・翼をください ・負けないで 「ルールを守って音楽を楽しもう！」	・ポップスの特徴であるシンコペーションのリズムを感じ、響きを大切に2部合唱で歌う。 ・音楽の様々な権利について、理解し楽しめる知識を持つ。	観察 鑑賞 学習プリント	6月
ボディー・パーカッション や“CUPS”に挑戦 ・ソルフェージュ 13～21 ・Plymouth Rock ・Clap, Tap with CUPS!	・楽譜の正しい読み方や書き方を身に付け、表現に生かすようにする。 ・ボディパーカッションやコップを用いたリズムアンサンブルをする。	学習プリント 筆記テスト グループ発表 観察	6月 中旬 ～ 7月
表現を工夫して楽器を演奏 ギター ・日曜日よりの使者 ・第三の男のテーマ	・ギターの正しい奏法を身に付け、コード表を見ながら伴奏パートを演奏したり、弾き歌いをする。	観察 学習プリント 実技テスト	9月 ～ 10月 中旬

リコーダー ・見上げてごらん夜の星を ・C-a-f-f-e-e ・ザナルカンドにて	・リコーダーの正しい奏法を身に付け、二重奏でアンサンブルをする。		
ミュージカル 歌唱：Memory/美女と野獣 鑑賞：ミュージカル映画『美女と野獣』／「舞台芸術」	・ハーモニーを感じながら、それぞれの役割を考えながら合唱する。 ・ミュージカルを鑑賞して興味を持つ。	観察 鑑賞	10月 下旬
発音や発声を工夫して 声によるアンサンブルの創作 創作：「オノマトペでリズム・ アンサンブルをつくろう」 歌唱：虫のこえ	・ハーモニーを楽しみながら、タイミングを合わせて2重唱をしたり、ヴォイスパーカッションでアンサンブルをしたりする。 ・《虫の声》の例を参考に、リズム・アンサンブルを作る。	創作作品 学習プリント グループ発表	11月 中旬 ～ 12月
音楽を形づくっている 要素に注目して、曲のよ さや美しさを探求 ・組曲《動物の謝肉祭》 ・交響曲第9番《合唱付き》 から第4楽章	・サン=サーンス、ベートーヴェンについて学び、名曲を鑑賞する。	鑑賞 観察 学習プリント	12月 中旬
クラスコンサート	・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、他者との調和を生かして演奏する技能、及び音楽アンサンブルの表現形態の特徴を生かして演奏する。	観察 課題進度状況 発表	1月 ～ 2月
日本の歌曲に親しみ、表現を 工夫して独唱 ・螢の光 ・この道	・曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。	観察	3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 《授業内評価》	40 % 程度	30 % 程度	30 % 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	演奏では、独唱、重唱やギター、リコーダーなど、様々なジャンルに挑戦して音楽を一生楽しめる様な技能を身に付けましょう。創作では、自分で作った作品を発表したり、互いに意見交換して音楽を通してプレゼンテーションの力を身に付けましょう。鑑賞では、音楽の構造や背景、歴史について学び、音楽的な見方・考え方を身につけましょう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
芸術	美術 I	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
美術 1（光村図書）	—

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	--

評価の観点 及びその趣旨	知	身近な自然や生活、社会、あるいは自己の内面などを感性を働かせて深く見つめ、感じ取ったり、考えたりしながらそれらの課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表現している。
	思	身近な自然や生活、社会、あるいは自己の内面などを感性を働かせて深く見つめ、感じ取ったり、考えたりしながらそれらの主題を決め、構想を練り、課題の解決を目指す考え方や判断を表すことができる。感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
	体	身近な自然や生活、社会、あるいは自己の内面などを感性を働かせて深く見つめ、感じ取ったり、考えたりしながら意識的に学習に取り組もうとする。美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち主体的に表現や創造活動に取り組もうとする。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
オリエンテーション 「美術について」	中学校で学んだ知識を生かしてプリント内容に回答してください。	プリント 行動観察	4月
絵画表現 「写真をもとにした写実表現」	グラデーションで学んだ技術を生かした写実表現です。対象物をしっかり観察してリアリティーのある描写をしてください。	実技課題 行動観察	4～5月
文字デザイン/立体造形 「ポップアップコラージュ」	文字のポップアップカードにコラージュを施します。言葉に合わせたコラージュ素材の選択とポップアップ機構の正確さ、バランスの良い構成力が必要です。	実技課題 行動観察	5～6月
映像メディア表現 「プラクシノスコープ」	12コマの手描きアニメで繰り返しが特徴です。滑らかな動きが表現できるように、計画的に制作を進めましょう。	実技課題 行動観察	6～7月
鑑賞 「美術史」	太古の昔から人類が行ってきた表現活動を美術の文脈から読み解きます。	プリント 行動観察	7月

鑑賞 「アニメーション」	静止画像を複数組み合わせて動きを表現するアニメーション作品を鑑賞して、自作の参考にします。	プリント 行動観察	9月
映像メディア/立体造形 「クレイアニメーション」	平面アニメの経験を生かして油粘土とデジタル機器でアニメを作成します。動きと画面構成でストーリーを開拓してください。	実技課題 行動観察	9～10月
デザイン/平面表現 「ポスター制作」	イベントを設定して、告知するためのポスターを制作します。内容にあった色彩構成力、絵の具を扱う技術が必要です。	実技課題 行動観察	10～11月
映像表現 「写真表現」	デジタル機器の普及で、誰もが気軽に撮影できる写真ですが、構図を意識して完成度の高い写真作品を目指します。	実技課題 行動観察	12月
立体造形/デザイン表現 「パッケージデザイン」	正確に作図した箱を作り、商品内容を伝達するデザインをします。観るもの興味を引きつける完成度の高いデザインをしてください。	実技課題 行動観察	1～2月
映像メディア表現 「コマーシャル制作」	タブレットを使って、伝達したい内容にそつて動画撮影をし、編集して映像作品を制作します。	実技課題 行動観察	2～3月
鑑賞 「相互鑑賞会」	他の人の課題作品を観察して、的確な言葉で自分の考えを伝えてください。	プリント 行動観察	3月

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 《授業内評価》	40% 程度	30% 程度	30% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」.....5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	何かに直接的に役立つわけではないからこそ、美術は人間にとつての文化的な活動であると言えます。教科書や資料を参考にして、造形的に良いバランスや高い完成度を目指して課題制作に取り組んでください。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
LANDMARK Fit English Communication I (啓林館)	LANDMARK Fit English Communication I ワークブック(啓林館) 英単語ターゲット 1900 6訂版(旺文社)

学習目標	日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようとする。
------	---

評価の観点 及びその趣旨	知	外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。
	思	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題についての情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。
	体	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期間
Lesson 1 「Enjoy Your Journey!」	・既習の文法を用いて、話し方や発音を意識しながら英語を用いる。	定期考査 課題	4月 ～ 5月中旬
Lesson 2 「Curry Travels around the world」	・不定詞や動名詞、受動態の意味や構造を理解し、文章から必要な情報を読み取る。 ・文章に沿ったテーマについて考えをまとめ、ペアやグループで伝え合う。	振り返りシート	
Lesson 3 「School Uniforms」	・比較級や最上級の表現や、分詞、関係代名詞の意味や構造を理解し、本文の内容を理解する。 ・学校の制服着用の賛否について、自分の考えを理由とともに英語でまとめる。 ・学校の制服についての会話を聞き、必要な情報を聞き取り、自分の考え方や気持ちを英語で表現する。	定期考査 課題 パフォーマンス テスト 振り返りシート	5月下旬 ～ 6月下旬
Lesson 4 「Echo-Tour on Yakushima」	・関係代名詞や関係副詞の意味や構造を理解し、本文の内容を理解する。 ・訪れてみたい世界遺産について調べ、内容や自分の考え方を英語で表現する。	定期考査 実力テスト 課題	7月上旬 ～ 8月上旬
Lesson 5 「Bailey the Facility Dog」	・不定詞の意味上の主語や間接疑問文、依頼表現、原形不定詞の意味や構造を理解する。 ・ファシリティドッグ導入の賛否について、自分の考え方を英語で話す。 ・飼っているペットや好きな動物について、自分	振り返りシート	10月上旬

	の考え方や気持ちを英語で表現する。		
Lesson 6 「Communication without word」	<ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の補語になる that 節を含む表現や対比を表す表現について理解し、本文の要点を捉える。 ・自分が関心を持つノンバーバルコミュニケーションについて、その仕草が持つ意味を英語で表現する。 ・自分が話すときによく使用するジェスチャーとその利点について、自分の考えを英語で相手に伝える。 	定期考査 課題 パフォーマンス テスト 振り返りシート	10月 中旬 ～ 11月 中旬
Lesson 7 「Dear World: Bana's War」	<ul style="list-style-type: none"> ・関係詞や分詞構文の意味や構造を理解し、本文の要点を捉える。 	定期考査 実力テスト	11月 下旬
Lesson 8 「The Best Education to Everyone, Everywhere」	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの良い点と悪い点について、他の意見を参考にしつつ、自分の考えを理由とともに英語で表現する。 	課題 パフォーマンス テスト 振り返りシート	～ 3月 中旬
Optional Reading	<ul style="list-style-type: none"> ・知覚動詞を用いた意味や構造を理解し、本文の要点を捉える。 ・将来自分が就きたい職業について、自分の考えを理由とともに英語で表現する。 ・文章を読み、必要な情報を読み取り、内容を理解する。 ・文章について自分の関心がある事柄を英語で伝え合う。 		

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考査評価〕	50 % 程度	27 % 程度	23 % 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	英語を読むことや話すこと、聞くこと、書くことのすべてをしっかりと学んでいきましょう。授業では失敗を恐れず、英語を使う活動に前向きに取り組むことが大切です。特に相手を理解するために聞く力を早い段階から養っていきましょう。また、パフォーマンステストに自信を持って臨めるよう準備しましょう。
--------	--

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
外国語	論理・表現 I	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
EARTHRISE English Logic and Expression Standard I (数研出版)	EARTHRISE English Logic and Expression Standard I ワークブック (数研出版) EARTHRISE English Logic and Expression Standard I 活用ノート (数研出版) チャート式 BIG DIPPER 高校英語 (数研出版) Listening Scope PRIMARY (いいづな書店)

学習目標	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようとする。
------	--

評価の観点 及びその趣旨	知	「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」のそれぞれにおいて、目的や場面、状況に応じて表現を使い分け、情報や自ら考えたことなどを効果的に伝えている。
	思	日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを整理し、要点や意図などを明確にしながら、適切な言葉や文字で伝えたいことを表現している。
	体	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。また、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
Lesson1 Introduce yourself to your class	・例文を通して5文型を理解する。 ・時制に応じて、動詞の形を変化させる練習を反復して行う。	・定期考査 ・課題 ・振り返りシート	4月 ～ 5月中旬
Lesson2 How do you spend your weekends?	・未来を表す表現のニュアンスの違いに注目する。		
Lesson3 Where did you go on vacation?			
Lesson4 How can I get there?	・助動詞+動詞の原形のルールを必ず守る。	・定期考査 ・課題 ・振り返りシート	5月下旬
Lesson5 Would you like to come with me?	・助動詞の意味の違いや、依頼文の作り方を学習する。	・パフォーマンステスト	～ 6月下旬

Lesson6 Something really Japanese	・不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を使い分けられるようにする。	・定期考查 実力テスト ・課題 ・振り返りシート	7月上旬～10月上旬
Lesson7 Do you have any volunteer activities?	・ask や want など、to+不定詞と一緒に用いる動詞を覚える。		
Lesson8 Let's enjoy school life!	・不定詞を目的語にとる動詞と、動名詞を目的語にとる動詞を区別できるようにする。		
Lesson9 Are you eco-friendly?			
Lesson10 What sports do you like?	・知覚動詞や使役動詞の文法をワークの問題をくり返し聞いて理解する。	・定期考查 ・課題 ・振り返りシート	10月中旬～
Lesson11 That's new to me!	・文脈から判断して、分詞構文を適切に日本語訳することができるようになる。	・パフォーマンステスト	11月下旬
Lesson12 Which Nobel Prize winner do you admire most?	・関係代名詞のルールや用法を理解するまで復習する。		
Lesson 13 I'm interested in history	・関係副詞のルールや用法を理解するまで復習する。	・定期考查 実力テスト ・課題 ・振り返りシート	1月上旬～
Lesson14 Various countries around the world	・比較級、最上級、同等比較など、基本的な文法事項を覚えておく。 ・仮定法過去と仮定法過去完了の違いを、授業の説明や活動を通して理解する。	・パフォーマンステスト	3月中旬
Lesson15 What job are you interested in?			

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔 授業内評価 + 定期考查評価 〕	50% 程度	27% 程度	23% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」・・・・・・5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	英語はコミュニケーションツールだと実感する科目にしたいと思います。自分の考えを表わすのに必要な表現を使えるようになるために、授業内のグループワークやペアワークでどんどん練習しましょう。そのためにも単語力が必要です。単語は何度も繰り返し覚えるといいでしょう。授業と教材を大切にして、単語や語法、必要な文法をしっかりと学んでいきましょう。
--------	---

令和7年度 科目別シラバス

教科	科目	単位数	学年	類型
情報	情報 I	2	1	全

教科書（発行者）	補助教材等（発行者）
最新 情報 I（実教出版）	Python でまなぶプログラミング（実教出版） 最新情報 I 学習ノート（実教出版）

学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働きかせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について知識を深め、技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。 2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

評価の観点 及びその趣旨	知	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	思	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	体	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

単元及び学習内容	学習のアドバイス	評価方法	学習予定期
オリエンテーション (1)中学校までの学習、経験等既習内容の調査を行う。 (2)コンピュータの起動や終了の方法、OSの基本操作について練習する。 (3)ファイルの操作、共有フォルダの利用方法について理解する。 (4)コンピュータ教室の使い方を理解する。	コンピュータ教室のルールを理解する。 ファイルの保存や操作することができる。 アプリケーションを開き、正しい手順で終了する。	・実習作業 ・行動観察	4月上旬～4月下旬
第2章 メディアと情報デザイン (3)情報デザインの実践 1 文書の作成 2 プрезентーション 第1章 情報社会と私たち (1)情報社会 1 情報社会と情報 2 情報の特性 3 情報のモラルと個人に及ぼす影響	文献やインターネットから情報を収集し、文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトを用いて、わかりやすい報告書やレポート資料を作成、編集する。そのためには適切かつ効果的な文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、改善を行う。	・学習ノート ・実習作業 ・行動観察 ・定期考查 ・発表	5月上旬～6月中旬

(2)情報社会の法規と権利 1 知的財産 2 情報の利用と公開 3 個人情報の保護と管理 (3)情報技術が築く新しい社会 1 社会の中の情報システム 2 情報技術と課題解決	知的財産権の概要について理解している。 目的を達成するために、著作物を法にしたがって適切に利用する方法を説明することができる。	・学習ノート ・実習作業 ・行動観察 ・定期考查	6月下旬～7月中旬
第3章 システムとデジタル化 (2)情報のデジタル化 1 アナログとデジタル 2 2進数と情報量 3 演算の仕組み 4 数値と文字の表現 5 数値の計算 6 音声の表現 7 静止画と動画の表現 8 情報のデータ量	アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。 2進数と情報量の関係について理解している。 情報量を適切な単位で表現したり、変換したりすることができます。 数値や文字の情報を目的に応じて適切にデジタルで表現できる。	・学習ノート ・実習作業 ・行動観察 ・定期考查	9月上旬～10月中旬
第5章 問題解決とその方法 (2)データの活用 1 データの収集と整理 2 データ分析と表計算 3 データの可視化 (3)モデル化 1 モデル化とシミュレーション	表計算ソフトを活用して、問題解決の目的に応じてデータを適切に可視化して表現する。モデル化およびシミュレーションが社会の問題解決でどのように利用されているか理解する。	・学習ノート ・実習作業 ・行動観察 ・定期考查 ・発表	10月下旬～12月下旬
第6章 アルゴリズムとプログラミング (1)プログラミングの方法 1 アルゴリズムとその表記 2 プログラミング言語 (2)プログラミングの実践 1 プログラミングの方法 2 関数を使用したプログラム	簡単なアルゴリズムを文章やフローチャートなどの図で表現できる。 問題解決のアルゴリズムにしたがって、基本制御構造を使用して、適切かつ効率的にプログラムを作成することができる。	・学習ノート ・実習作業 ・行動観察 ・定期考查 ・発表	1月上旬～2月下旬

年間評価	知	思	体
観点別評価割合 〔授業内評価 + 定期考查評価〕	50% 程度	30% 程度	20% 程度

※「観点別学習状況評価」・・・3段階評価 (A/B/C) 【1学期末、2学期末、学年末 (年間評価)】

※「評定評価」.....5段階評価 (5/4/3/2/1) 【学年末 (年間評価)】

全体を通して	情報機器を用いて、情報(データ)を効果的に収集・編集・活用・発信することを身に付け、主体的に問題の発見、解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることを学びます。授業を毎回出席し、持続的に学習することが求められます。
--------	--